

II

成人向

奴
隸
騎
士



奴



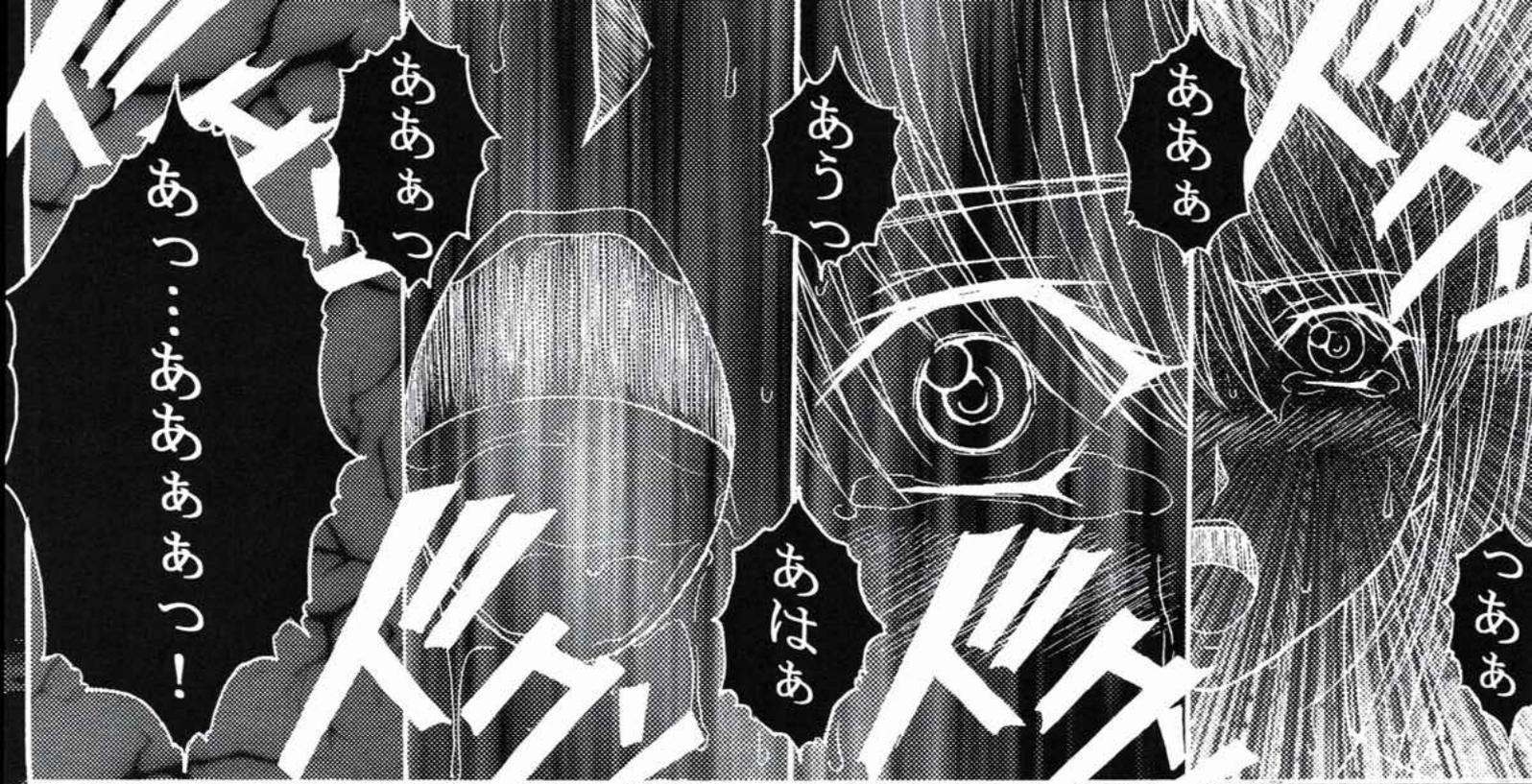
隸



騎



士



あゝ……あああああゝ！

あああゝ

あゝゝ

あああ

あはあ

あゝあ



ああああーッ！

あはああああ



あああん！

あゝ……あああゝ！

ひっ

ひあああゝ

あはゝゝ

ああ……あ

あゝゝ



ああ……あう

あんっ

あうあうあう

ああ……ああん
あうあうあう！



ああう

あんっ

あうあうあう！

——ッ!!
な……なんだ……
これは……っ！



こ……んな……
……ス……ゴ……っ

あはあう

ひいっ

あうっ

あひっ……ああ
ひあああう



あうあう

あああう……



あああ

あはあん

あうっ

だ……めえっ

イクうっ



脳髄がしびれる程の快感が貴様の身体中を駆け巡る

ククク…ッ
いいぞ…っ
好い啼き声だ
セイバーよ…っ

あぁ
あん



身体の芯から押し寄せるその快感に

あ
正気を保つことは
できまい…っ



…き…
気持ち…いい…っ!
頭が…どうにか
なりそう…っ

あ…あ…
あはあ…

はあああ…あんっ

あうっ



そして存分に淫らな自分を曝け出すのだ…

ひっ
あ
盛りのついた牝犬のように喘ぎ声をあげる…っ

あん

あはあ…



はあ

こん…なの…
…とても…
耐えられ…ない…っ

あぁ
ひああ…

はっ

さあ…快楽に身を任せよ



あはあ

あん

あああ

ああ…あん

はっ

はしたなく
何度でも
気をやるがいい

ああ

はっ

あゝああ

はっ

あゝ



ひあ

ああん

あはっ

あゝ…

ああ

ああ

んあ



ああ

あ…ん

あん

抑えられ…ない
だ…だめえ…つ
…ま…た…
イ…イクう…ツ!

あん

んあ



いやあ…っ！
イ…クう…
イツちやう…ッ！

あひい…ああ
あはああんっ

ああああ

ひああっ

あっ



あはあ

イクうっ

あああん

あはああっ

あっ

はあうっ



あああああーッ

ひっ

イクうああっ

イツちやう…っ
あっああっ

だめえ…っ
はああ…っ
あっああん



実に無様な
姿ではないか
クク…ツ

はああ…っ

ああ

うっ

はあ

はあ

はあ

あう…ああん

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ…は…あ
…イ…っくう

はっ

はあ

ハハハ…ツ
凄く乱れようだな
これが騎士王と
称えられた
女だとは…っ



悔しいか？
忌み嫌っている男に
弄ばれるのは…

オマエはもう
騎士王ではなく
ただの牝奴隷だ…

うう…あああ

悔しい…けど…
…もう…だ…め

もし王の誇りが
まだあるのなら
抗ってみせよ…っ

ちめ…っ

あああ

はあ



はあっ

…こんな…奴に
負けたく…
ない…のに…っ

ふああ

あう



あああ

それとも最早
騎士王としての
気高い誇り
さえ消え失せたか

あんっ

はあ…あっ



あうっ

主を守護すべき
サーヴァントと
あろう者が敵に
乳房を揉まれ

母乳を撒き散らし
喘いでいて
どうするのだ？
ククク…ッ

だ…めえ

ああ

…私は…
士郎…の…
サーヴァ…ント

あん



んああ

ひあん

そんな…なに…
揉まれ…たら…

セイバーよ…
オマエはあの雑種…
…衛宮士郎を
助けたいのだから？

はあ



彼を…助け…
ない…と…っ

いずれ色欲の虜
となつたオマエの
痴態ぶりを

あう…くうっ
ギルガメ…ジュ
もっ…ちゅめ…

奴の目の前で
たっぷりと
晒させてやる…っ

はあ
はあ

はあ

あああ
はあ



あくう

ああっ

んああ



あはあ…ああ
ちゅめ…ちゅめ…

ああん

ひっ



淫らに喘ぐ
貴様を見て
何と言うかな？
ハハ…ッ

…く…っ
でも…もう逆らえ
ない…っ

ああ

はあ

はあ

はあ

あっ

あんっ

はあ

あっ



奴のことは
すぐに忘れさせて
やろう…

はあっ

はあ

あ…あ

…私は…貴方の
サーヴァントとして
…失格…です…

はあっ



まあ…
あの雑種の事など
気にしなくていい

…土郎…
すみま…せん…

…はなし…て
あっ…ああん

今やオマエの主は
このギルガメッシュ
なのだからな

あ…あう

い…やあっ



敵意…憎悪…
そんなものは
すぐに消えて
なくなる

オマエは自分の
意思で我を
求めるように
なるだろう…

あ

ん



ああ…っ

は…あ

貴様のちっぽけ
誇りや自尊心な
我の前では塵に
等しい…っ

ああ…う
や…め…あ

あんっ

あう



はま

ありがたく思えよ
至高の快楽を
与えてやろうっ

貴様の頭の中を
淫らな悦楽のただ
一色に染めてやる

イ…イヤ…っ
もう…やめ…て
…これ…以上…
され…たらあ…

あんっ

あああっ

あはあ



卑しい牝奴隷
セイバーよ
我に身も心も
捧げるがいい…っ

あはあ

ああん

あ…っ

あ…っ

あ…っ





お…膣奥…を
掻き…回さな…
…いでえ…っ

あう
あああ…っ
あはああ

あはあ

膣奥…に
く…の…っ
っ

あああ



あ…はあ

あ…あん

あう

ああはあん
だ…だめえっ

貴様の肉壺が
悦んでいるのが
わかるか？



あああ

あ…はああ
イ…ううっ

ああ



ああんっ

あう

ひあ…あ



んあ

私のモノを
美味しそうに
啜え込んでいる

あう



ああ...イイ...ツ
 気持ち...いいつ
 と...とろけ...る
 :頭の中...が
 とろけちや...うう



こんなに汁を
溢れさせおつて
節操のない
肉壺だな…っ

あつ

ククク…ッ
我のモノに絡み
付いてくるぞっ

あん

ほう

ひああ…ああ
っはああ…ん

こ…壊れる…っ
理性が…壊れて
い…く…っ

あああ

はあっ

…私は…
なんて…弱…い
女なの…っ

ああんっ



さあ…自分に
正直になれ…
肉欲の快楽を
受け容れよ

ああ

誰もオマエを
責めたりはしない
この肉の悦びに
浸るがいい…っ

はあ

あう

んあっ

あああ



あつ

淫らな自分を
恥じることは
ないぞ…っ

んっ



し…士郎…っ
私は…もう…

あつ

あん

ああ…はあん
い…や…あつ



虚勢を張るのは
もうやめて
本性を曝け出せっ

あつ

はっ

ああ

オマエは
淫乱な牝奴隷
なのだからな

ひあ



全てを棄てて
我だけを
愛する女になれっ

あ…んっ

あああ

はあっ

はああ

あんっ



あああ...あ
ひああ...っ

貴様は私の
ためだけに
存在するのだ

あゝ
あん
あゝあゝ
はあああ
あゝ...あゝ

はゝあ

んっ



我が永遠に
貴様を支配するっ
ハハハ...ツ

あはあんっ

あゝ
ギクギク
んっ
ギクギク
ひああっ

あん



あああゝ

あんっ

あはあ



この美しい
肢体も
その気高き
精神も全て...

あゝ

あ

あ

あゝ

ギクギク

ギクギク

ギクギク





ああ

好い貌に
なってきたぞ
セイバーっ

あああ

心底快樂に
浸りきった
牝の貌だ…っ



あ…はああ
イ…っくう…っ

ひああ

ああ



あう

私のモノで
子宮の奥まで
突き上げられて
幸せだろうっ

あんっ

ああ…あ

私の肉奴隷で
あることに
感謝しろっ

あ



ああん

はあ

だめえ

ああ…あはあ
お…膣奥…にい
あ…たるう…っ

射精すぞっ!
膣内にとっぷりと
くれてやるっ

ああん

私の精液で
子宮を満たすが
いいっ!

あ…くう

ああっ

あはあっ

だ…めえ…っ
…もう…
限…界…っ

はっ…あう
イ…ク…っ

ああ

だめえっ

んあ

あっ

ああっ

はあっ

イっ…
イ…ク…ッ

ああん

あんっ

はあ

あう

ひあ

あああ

あっ

あああ

ドドドド
ドドドド
ドドドド



あああんっ

イックウッ

あはああああッ

ひ...あ

ああ

はあ...あ

あうあ

あ...ああ

ああッ



セイバーとあろう者が
何ともはしたない
アクメ顔ではないか...

やはり貴様の
膣内に射精するのは
最高の気分だな

あ…はあっ

ああ…あっ
はあ…はあっ

オマエも随分と
感じていたようだし
心底快樂に浸れて
夢見心地だろう

征服感がより
一層増すという
ものだ…っ

ああ

ああっ

これから何度も
子宮を私の精液で
溢れさせてやるぞ

はあ

はあ

はあ

私のモノが
愛しくて堪らなく
なるほどにな…っ

はあっ

あ…熱い…っ
子宮が…熱…いい

既に我への嫌悪感も
かなり薄れている
のではないか？

ククク…ッ
オマエの心は
我に惹かれつつ
あるのだ…っ

はあ

はあ

はあ



ちが…う

貴様自身の
意思で…
その肢体を我に
捧げるのだ

オマエはもう
我を拒むことなど
できはしない…っ

ああ

私は…っ

さあ…主たるこの
ギルガメッシュを
求めよ…

あ…

…だめ…っ
それだけは…
絶…対に…っ

だ…めっ

やめ…



—んッ!

自分の…意思で
…この男を…
求める…なんて

んふう

んんっ

んう

んっ

あんっ

らめ…

それ…だけは…
…だ…めえ…っ

んうっ

ん…んっ

っんん

ん…あんっ



この肉壺をもっと
掻き回して欲しく
はないのか？

オマエの肢体は
こんなにも
正直だぞ……っ

あ……だ……めえ……
でる……っ
で……ちやうど……っ



んんん

ん…あん

んんっ

あ…んんっ

はあ

はあ



我に隷属し
淫欲にまみれる
幸せを掴むのだ



貴様は無力で
弱い女だ…
無理に強がる
必要などない…っ

我に全てを
委ねれば
甘美な悦楽を
味あわせてやる



愛しいセイバーよ…
我と深く愛し合おう
ではないか…

ああっ

はあっ

んっ!



我に尽くせ…
この我を満たす
ためだけに生きる
女になれ…っ

ああ…んん
ん…うんっ

…んっ

あん



な…なぜ…
…こんなにも…
心が…満たされて
いくの…

んんっ

あんっ

んっ



…この…胸の…
昂ぶりは…なに…?

ん…ふう



…だめ…支配
 されていく…
 肢体だけでなく
 心の奥底まで…



…私は…
 もう…
 だめ…です…



…でも…私…は
 んあん



認めたく…ない
 んっ



…土郎…
 許して…下さい



ああ…



敵であるはずの
この男への憎悪：
そして羞恥、屈辱
全てが消えていく…

私は自分の意思で
選んでしまった…
士郎を救うことよりも
快楽に溺れることを…



もう戻れない…
哀れな牝奴隷として
私は堕ちていく…



☆あとがき☆

☆奴隷騎士IIをお買い上げありがとうございますっ！

初めての方もそうでない方もこんにちわっ(^.^)

巨乳と陵辱寝取られ大好きなサークルKUSARIのアオイみっくです☆
奴隷騎士Iからなんと8ヶ月も空いてしまいました(>_<)アオイみっく何を
やってたんだ〜っ！！って感じですね(-_-;)本当に…

さすがに期間が空きすぎて反省しております(そのわりにページ数少ないし)
今回の作品より今まで四苦八苦していたキャラクターの瞳がバージョンアップ
されてようやくまともな瞳になりました☆トーン処理され綺麗になってます
奴隷騎士Iで気になっていたキャラの瞳ですが今回の変更により奴隷騎士Iの
3版よりセイバーの瞳が修正されています☆☆3版より表紙の紙質が変更にな
ってしましてそれが3版です

今回の奴隷騎士はセイバーの完堕ちまでが描かれており完堕ち後の作品は
奴隷騎士IIIとなります☆すでもう描き始めてますが本当に奴隷になったな〜
って感じの内容になってます☆ん〜陵辱寝取られって最高ですね〜^_^
奴隷騎士はIIIで完結予定ですので宜しければ奴隷騎士IIIもどうぞ宜しく御願
い致しますっ！では次回の作品でお会いしましょう☆☆

☆新刊等の詳しい発売情報はメロンブックスホームページのサークル情報板に
あるアオイみっく通信をご覧ください。毎月1日を目安に書き込みされていま
す☆2007年現時点でのホームページでは一番上の段に小さい文字でサーク
ル情報版とあります☆少し見つけにくいです^_^;

☆タイトル 奴隷騎士II ☆サークル著者 KUSARI アオイみっく

☆印刷所 サンライズ ☆発行日 初版 2007年 11月 5日

☆メール kf58gst@star.ocn.ne.jp (メール先が変更になりました
送信される際は必ず題名にアオイみっくといれてください)

☆18歳未満のご購入及びご購入はご遠慮ください。この本の一部及び全部を
許可なく無断で複製複写転載する事を禁じます。

KUSARIの同人誌販売委託店一覧です

⇒虎の穴、メロンブックス、メッセサンオー、まんだらけ、たちばな書店
MAGMAG、四国信長書店、ブックメイト、同人堂、LLパレス
新宿書店、グレップ 計12社です☆

最寄りに同人ショップがなかったりPCがなく通信販売できない環境の方は
携帯電話から購入できる携帯電話同人誌通販ショップ<同人道.com>を
ご利用ください☆ URL <http://doujindou.com/>



女騎士

KUSARI

アオイみく



KING ARTHUR

SABER